安全のための 6 つの TSM 構造

'02/1/24 マリヤン(ミミ)・コックス LCSW, LP 記

治療的らせんモデル(TSM)の基礎となる原則は、隠し事がないことです。情報収集は、安全で支持的な環境を作り出すための第一歩です。その話の流れで、皆さんにはワークショップの中で使われる構造と様々なアクティビティーの目的について知っておいて欲しいと思います。治療的らせんの 3 本のより糸は、エネルギーと体験、そして意味を表します。3 日間のワークショップで、初日はエネルギーと安全性を確保するために使われます。どのような TSM ワークショップにおいても、最初の部分で 6 つの構造が作られます。

1) 最初の構造は、私たちの Observing Ego(観察している自我：OE)の役割を具象化し位置づけることです。TSM では、これを表現するためにカードを使います。OE は観察し、判断や批判なしにデータを取り入れる役割です。それは気づきと観察することに関するものです。それは、体験中に立ち往生してしまったときに、文字通りまたは比喩的に行くべきところになりえます。ですから、これは安全性を築き、維持していくための重要な資源なのです。

2) グループとして、次のステップは、包み込まれた体験空間を作ることです。TSM では、「スカーフのサークル」でこれを作ります。参加者とチームメンバーは、ワークショップやそのワークに持ってきた様々な力に名前をつけ、提供します。その力は、個人的なものでも、人間関係のものでも、トランスパーソナルなものでも結構です。それらは、円を作りながらスカーフで表現され、一つ一つ名前付けられていきます。トラウマの体験を探り意味づけするために最初に必要なことは、私たちが自分自身を提供し、その力を使えるようにすることです。スカーフのサークルは同時に、体験する空間と観察する空間の境界となります。

3) そして私たちはつながりを持ち始め、グループのメンバーとしての我々自身を学び合います。スペクトログラム(分光)として知られる構造を使います。参加者は 1 列に並んで立ち、最少から最大までの連続したつながりに沿って自分自身を置きます。これは、チームや参加者が、瞬時に評価情報を得ることを可能にするアクション・メソッドです。たとえば、参加者がどれくらいのサイコドラマの経験が有るかという情報は、それぞれのグループにおいて、チームがどこで介入すべきか適切に判断することに役に立ちます。

4) 4 番目の構造はアクション・ソシオグラムと呼ばれます。グループメンバーは他の人とのつながりを確認します。これは、グループの中にどのようなつながりがあるのかを参加者とチームが眺め、グループがお互いにつながり合うことを可能にします。

5) 最後に、輪になってのソシオメトリを体験します。グループメンバーは輪になって、ある基準が自分に当てはまるかどうかで、自分自身を輪の中か外に置きます。(たとえば、何人

の人がペットを飼っているでしょうか？ペットを飼っている人は輪の中へ入ってください)これは、つながりをつくるプロセスを続けるとともに、私たちの体験に物語のラベルを包含的なやり方で与えるために設計されています。正確なラベル付けはトラウマからの回復のプロセスにおいて重要な部分です。このアクション構造はお互いとその体験について知るチャンスをもたらします。

6) ワークショップはまた芸術プロジェクトを取り入れています。それは進行中のプロジェクトの中にあり続け、ワークショップの間じゅう続くものです。芸術プロジェクトは、参加者が違った役割や非言語で創造てきな体験をラベル付けしたり、特定することを可能にします。

このモデルは、何か分からないことがあったり、何か安全で無いことを感じたりしたら、質問することを薦めています。チームは安全に対して主たる責任を持っていますが、もし何かが苦痛をもたらし、なんらかの処置をとる必要があるときには、それぞれの人が安全のために必要なことを表明して、チームに知らせる責任を持つことは重要なことです。

原著：The Six TSM Structures For Safety by Maryann (Mimi) Cox, LCSW, LP
和訳：小林ひとみ、櫻井靖史 ‘09/10/7